2020.10.21

大草

読書メモ

143.竹村牧男「華厳五教章を読む」春秋社（2009.11）

**＜竹村牧男「華厳五教章を読む」から＞**

（前書きから）

・「華厳宗」という仏教がある。一入一切・一切入一、一即一切・一切即一を説き、事事無礙法界（事物と事物が妨げなく融け合っていること）を説き、重重無尽（あらゆる物事が相互に無限の関係をもって作用し合っていること）の縁起を説く。その徹底した関係主義的世界観は、現代哲学をつとに先取りしたものであり、今後の時代・社会を切り拓く世界観として注目に値するものである。大乗仏教の唯識思想は、今日多くの人々に広く受け入れられてきているが、今後この華厳思想も大いに活用されるべきである。

・華厳宗の思想を最も詳細かつ体系的に説明しているこの「華厳五教章」についてなるべく解りやすい解説をしようと思うと著者はいう。また華厳思想は、大乗仏教の中でも、もっとも深遠な思想と見てよいという。

・華厳思想とは、「華厳経」に説かれた仏教の教えのことを指す。智儼（ちごん602〜668）が華厳哲学のほとんどを創造し、法蔵（643〜712）が大成したといわれている。朝鮮では、華厳経が用いられたが、日本では法華経が尊重された。

・華厳経は、釈尊成道27日(第2週目）の説法とみなされ、毘盧（びる）舎那仏の覚りの光景を描く経典である。華厳経の大半は、菩薩道についての説明である。

（毘盧舎那仏の悟りの世界）

・華厳経は、菩薩道を説く経典ともいえるが、その中に唯識思想の原点ともいうべき、三界は唯だ心のみによることや、如来蔵思想の原点ともいうべき、衆生に如来の知恵がそっくり存在しているのに自分では気づいていないことなどが説かれ、しかも常に世界は空・無自性を根本としていることが説かれている。

　例えば、「一つの毛穴（毛孔）に十方三世の仏が存在し、おのおのの仏には無量の菩薩らが周りにいて、それぞれ法を説いている」とか「一本の毛先に、無量の仏国土が存在していて、それらの仏国土は、それぞれその広大な空間を少しも損ねていることはない」と説かれている。

(ミクロの世界に見る縁起)

・物理学の世界では、ミクロの素粒子の世界になると、1つの粒子は他の一切の粒子から成り、それ自身が他の一切の粒子を作り上げている、という事態が見られるという。ハドロン(陽子・中性子等の素粒子）の姿は、「あらゆる粒子が他のすべての粒子からなる）という。つまり「個々の粒子は他の粒子の生成に力を貸し、生成されて粒子はもとの粒子を生成する」ということである。

　この素粒子の世界は、華厳経の一入一切、一切入一や重重無尽や事事無礙法界という華厳経の世界観にそっくりであり、まさに驚くべきものであるという。

（宇宙全体が仏）

・華厳思想以外の仏教思想は、仏とは衆生や仏国土とは別の存在と考えて分けている。しかし、華厳思想では、この3つ(仏、衆生、国土）が一つに溶けていると説き、その全体が仏の存在であるという。華厳によれば、宇宙全体が仏ということになる。

・華厳思想では自分と宇宙と一切の生き物を全て一つの自己と考える。別の表現をすれば、個にして一切全てであり、一切全てが個としての自己であるという。

（本性は空性である）

・華厳思想は、自己や世界の全ての現象を貫く本質・本性は空性であると説く。仏教思想の多くは、相対と絶対とを分けない見方をとり、自己や世界のすべての本質は空性なのであるから、絶対者を有として立てることもないという。

（三車一車の喩え）

・法華経の譬喩品にある「三車一車の喩え」（火宅の喩え：長者の大屋敷に火がつき燃えているのに三人の子供は遊びに夢中で外に逃げようとしない。そこで、長者は子供たちが欲しがっていた羊車・鹿車・牛車のおもちゃが外にあると言って外に出るよう導くという喩え話）

長者---　釈迦の喩え。

子供---　衆生の喩え。

羊車・鹿車・牛車---　声聞乗（仏の導きで自分の悟りを開く）・縁覚乗（自力で自分の悟りを開く）・菩薩乗（自分だけでなく皆を悟りに導く）の釈迦の教えの喩えである。

大白牛車---　一仏乗の喩えである。

仏は一心に衆生のことを思っていて、方便まで設けて、どんな者をも究極の仏果の世界に導くという「仏の大悲」を示した喩えといえよう。

〈この後、解説が延々と続くが、難解なため省略する。関心のある方は読んでください〉

（意見交換のテーマ）

　今回は、特にありません。

以上